

山岳ぐんま

群馬県山岳連盟

発行人：吉田直人 / 編集人：根井康雄

〒371-0031 前橋市下小出町2-46-1 (小池寛喜方) tel 027-235-9247 E-mail: tomoyoshikoike3810@gmail.com



赤城山 黒檜と大沼

top News

「山岳ぐんま」リニューアルにあたって

群馬県山岳連盟 会長 吉田直人



今号より「山岳ぐんま」をリニューアルいたしました。群馬岳連初の会報としては「群馬岳連報」(1957(昭和32)年～59年)を3号のみ発刊して休眠。そして途絶えていた会報は15年の時を経て「山岳ぐんま」の前進である「嶺呂」として74年に創刊され、98(平成10)年「嶺呂」から「山岳ぐんま」にタイトルを変え文字も大きくサイズもA4にし現在に至っております。

令和の時代となり社会のデジタル化が進む中、我々群馬岳連も時代の変化に対応していく必要があることは言うまでもありません。「嶺呂」の時代より慣れ親しんできた白黒、縦書きからカラー、横書きにすることで見や

すく読みやすくします。内容も各委員会からの報告や情報はもとより、エッセイ等親しみが持てるコーナーも追加していきます。また、紙媒体から電子媒体に変更しスマートフォンがあればいつでもどこでも読めるようになります。電子版に抵抗がある方はプリントアウトしてお読み頂ければ幸いです。参与会の皆様には今までどおり紙にしてお送り致しますのでご安心下さい。

会報は組織における生命線であり組織に属する全ての人の共有物です。今後も新しくなった「山岳ぐんま」を岳連会員の皆様にご協力頂き、尚一層興味を持って読んでもらえる様な会報創りをめざし、更に未来の群馬県山岳連盟に向け進化していくことを期待しております。

2020 年度 県民登山大会の報告

事務局長 小池寛喜

今年度の大会は、コロナ禍中での開催とあり、JMSCAの「登山再開に向けてのガイドライン」をベースとして3本のコース設定と5-6名の小グループでの分散行動を基本対策とし、直前中止も想定しつつ準備を進めさせていただきました。

分散行動で全体の統括が複雑になることから、CL、GL、行動役員は事前下見に参加いただいた方に加え団体申し込みを頂いた山岳会の方々にお願いし、通信班が全グループの状況を把握する体制で無事に開催、終了することができました。開催当日のみならず様々な面でご協力いただいた皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

今回のコースは、編集出版に協力した「群馬の山歩きベストガイド」掲載の山々をテーマに、救援体制や集合し易さを考慮して県央部を選定。山岳連盟ホームページ上の開催要項公開が申込み締切

り1ヶ月前に迫ったものの、一般29名+会員70名+本部待機役員9名（合計108名）と当初想定の2倍程の参加者数となり、コロナ禍にあっても取り組み易い屋外スポーツ・登山の魅力を示したと言えるでしょう。

当初は中止も想定したとあって積極的な広報は県のイベントチラシ掲載のみだったものの、一般申込みの方々は会員の伝手とホームページの公開情報を捉えていたようでした。

このような背景から、開催要項・申込み受け付け・補足資料配布を基本的にインターネット上で行うことで郵送によるタイムラグを極力減少、ペーパーレス化で経費節減に努めました。大会単体での事業収支は赤字ですが、県民登山大会のもう一つの目的である安全登山の啓発活動を通して県民生活の質の向上に貢献していることを見れば大きな黒字を叩き出しているのではないのでしょうか。

ところが啓発として今回大会で行った「ココヘリ」の携行促進策は、事前準備と周知が明らかに不足で大反省。会員の携行者は14名と寂しい状況も判明。手法を見直して取り組んでいきたいところです。

今後も登山が生涯スポーツに活かされるよう県民登山大会を啓発の場として広く利用できたら良いと考えています。皆さまのご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。

第35回群馬県民の日記念事業 第43回県民登山大会 開催要項

【要旨】

趣旨

山や森林に親しみ、学び、その恵みに感謝し、そして守る取り組みを推進するとともに、楽しく安全に故郷の山を歩くことで、登山の喜びを味わい、健康と体力の保持増進を図る。

また、群馬県秋の環境美化運動の一環として清掃活動を実施する。

主催

群馬県山岳連盟

開催期日

令和2年10月25日（日）

会場

小野子山（標高1,208m）、十二ヶ岳（標高1,201m）、子持山（標高1,296m）

受付：午前7時から 於：北毛青少年自然の家グラウンド前駐車場内

開会式：午前7時30分から

閉会式：なし（適時解散） 午後3時半までには終了見込み

参加料

1人 1,000円（傷害保険料を含む）

当日の受付時に納入してください。

コース

Aコース 小野子山・十二ヶ岳 縦走（健脚向き）（高低差約850m） 約7時間

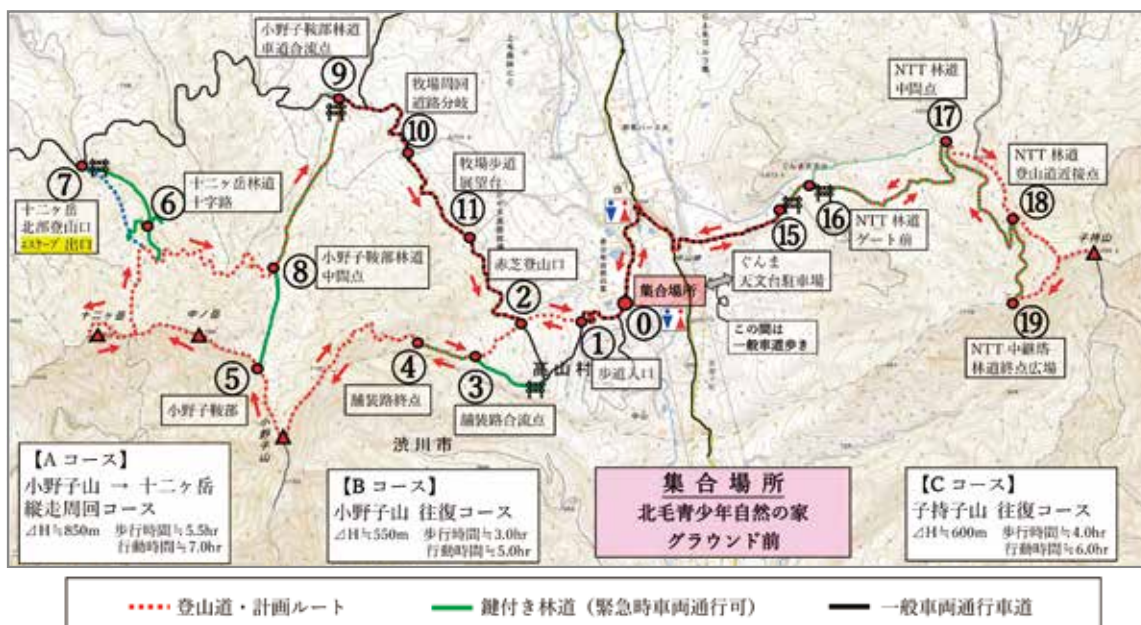
青少年自然の家→小野子山→中ノ岳→十二ヶ岳→青少年自然の家（周回）

Bコース 小野子山 往復（一般向き）（高低差約550m） 約5時間

青少年自然の家→小野子山→青少年自然の家

Cコース 子持山 往復（一般向き・急坂少ない）（高低差約600m） 約6時間

青少年自然の家→子持山→青少年自然の家（※一般車道歩きがあります）



県民登山 Aコース

(小野子山・十二ヶ岳 縦走周回)

[健脚向き]

高低差約 850m / 約 7 時間

青少年自然の家→小野子山→中ノ岳→十二ヶ岳→青少年自然の家 (周回)

C L 対比地 昇

新型コロナでいろいろな催し物が中止される中で、今までにない対策がとられての開催であった。

事前に G L 予定者を誘いコース調

査を実施した。十二ヶ岳までは傾斜が急で注意を要するところもあったが、コースとしては問題なし。十二ヶ岳を下ってからは新旧の作業道がたくさん入り、草で踏み跡のはっきりしないところも多く、道迷いに注意しなければならないコース

であった。行動時間が 7 時間で、15 時には帰着と想定したコースであるが、遅れる参加者もいるのではないかと危惧された。

本番当日は絶好の登山日和であった。快晴の中 7:55 登山開始。8:17 赤芝登山口、9:40 小野子山着。途中、何カ所かで小休止をしたが、後続のグループも次々に



十二ヶ岳山頂で昼食休憩

続き、密を避けるために短時間で出発せざるを得なかった。コロナ対策で密にならないようにすることに神経を使った。6 人ずつの小人数 8 班編制で、2 班が少し遅れていたが、特に問題なしで順調。木の間から見える眺めを楽しんで出発。急な下りに注意し、10:05 鞍部そして、150 m 登って、10:30 中ノ岳に到着。密を避けるために昼食場所も三カ所に分け、7, 8 班がここ中ノ岳、4, 5, 6 班がこの先の鞍部、1, 2, 3 班が十二ヶ岳山頂と割り振った。

中ノ岳を出発し、急傾斜を注意し



林道小野子山線に行く

ながら下り、10:51 鞍部そして、急な男坂を登り、11:10 十二ヶ岳山頂に到着。各場所で 30 分の昼食休憩をとった。山頂は広く遮る物がなく、遠くまで見渡せる山々の景色を堪能し、気持ちの良いひとときを過ごすことができた。

11:40 十二ヶ岳を出発、女坂を下って 11:50 再び鞍部に戻り、高山

村方面に下山。高山村側の十二ヶ岳登山口へと続く林道と合流した先で右の踏み跡のはっきりしない方向に進むが、間違えやすいところなので道案内 1 人を配置した。12:45 小野子山、中ノ岳間の鞍部からの舗装道に到着。舗装道を下り、13:07 林道小野子山線に出た。舗装された林道を進み、牧場展望台で休憩をとり、

14:07 大会本部の待つ北毛青少年自然の家グラウンド前に到着した。後続のグループも次々に到着し、最後のグループも 15 時少し過ぎには無事に到着した。

紅葉には少し早かったが、何カ所かで色づいた木々の葉や遠くの山々もはっきり見ることができ、楽しめた県民登山であった。

県民登山 B コース

(小野子山往復)

[一般向き]

高低差約 550m / 約 5 時間

青少年自然の家→小野子山→青少年自然の家

C L 高木 均

今回は新型コロナで開催が危ぶまれましたが、流行が小康状態となり、できる限りの感染対策を講じての県民登山大会となりました。

10 月 25 日、集合場所の北毛青少年自然の家のグラウンドは、霜で真っ白の冷え込んだ朝です。天気予報通り晴れで、風もなく絶好の登山日和です。

例年と違って、受付で検温するわけだったのですが、非接触型の体温計が低温のため、作動しなくて、急遽自己申告での健康チェックとなりました。イベントでは当分の間は体温測定が必須だと思いますので、何らかの対策が必要だと思います。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、連絡事項の報告や準備体操を終えて、8 時に出発となります。私の担当は小野子山往復の B コース



出発前（北毛青少年自然の家グラウンド）

です。役員を含めて総勢 40 数名の大パーティーです。ゆっくりと歩くのは得意というか、早くは歩けないので先頭に行くことになりました。舗装された林道から杉木立の中、丸太の階段を登っていきます。緩やかな傾斜なので、ウォーミングアップにちょうどいい感じです。30 分ほど、また林道に出て、赤芝登山口に着きました。小休止とします。役員の T さんが、傍らにある樹木の解説をしてくれました。眺望もないところなので、皆さん興味深く聴き入っ

ていたようです。

ここからが山道になります。広葉樹の林の中を歩きます。5～6 人でグループ分けし、ソーシャルディスタンスに配慮したわけですが、なかなか



「ソーシャルディスタンス」も難しい



山頂での解説

かうまいことには行きません。さりげなく声をかけても、皆さん楽しそうで、すぐに忘れてしまうようです。また林道に出ます。地図にはないのですが、コンクリート舗装の勾配がきつい道です。やがて道が藪に突き当たります。また山道に入りますが、ここで小休止です。この辺が標高差で中間です。少し汗ばんで来た人もいようで、服装を調整し、水分補給をします。

息を整えた後、出発です。杉林の中、根の張り出した大石ゴロゴロの険しい急登がいきなり続きます。ペースはさらにゆっくりになります。やっとソーシャルディスタンスが守られてきたようです。石がなくなると傾斜も緩み、泥道になります。栗のイガが転々と散らばっています。熊の通り道ようです。彼らは栗の枝を折り、それを自分の縄張りに運んでから食べるそうです。熊手らしい跡も見受けられます。少し怖い気はしますが、大人数なので出会うことはないだろうと思うことにしました。そんなことを考えながら歩いていると、急に明るくなり、頂上に続く尾根の直下に出ました。まわりは広葉樹の葉が色づいています。あと少しで尾根に出ると思うと、身が軽くなります。不思議です。

尾根といっても樹木があるため、さほど眺望がいいわけではありませ

んが、色づき始めた葉を透過する陽の光が心地よいです。間もなく少し開けたところに出たので休憩します。下界が見えますが地理不案内な私には、どこですかと尋ねられても、日本ですとしか、答えられませ

んでした。これからは気を付けます。

さて、ここからは快適な稜線歩きが始まります。時折吹き抜ける風と落ち葉を踏みしめるリズムカルな音が、旋律のようです。緩やかなアップダウンの続く道を進みます。少し下って、県指定天然記念物「高山のゴヨウツツジ」の脇を登ります。花の時期は5月末だそうです、今度は咲いているときに来たいと思います。再び稜線に出て、枯れ葉の絨毯の上を進むと小野子山頂、標高 1208.3m

に着きました。参加者の方々は健脚ぞろいで予定より 30 分早い登頂となりました。ここで、45 分ほどの大休止としました。

頂上では、県境の山々から逆光に輝く利根川の先に続く、関東平野まで素晴らしい眺望でした。ふと気が付くと、三角点のまわりに人だかりが出来ていました。長年、岳連役員をされている S さんが、三角点に刻んである記号について、解説していました。昔はどこかの宮家の所有か管理だったとのこと。今まで気にも留めませんでした。話はいじりますが、国土地理院によりますと、今後、三角点は不要だそうです。GPS の精度が向上したため、使わないので、三角点が倒れたりしても管理しないそうです。寂しい気がします。そんなことに思いをめぐらしていると下山の時間になりました。

来た道を戻ります。落ち葉の下には何があるかわからないので、慎重に



小野子山山頂

歩くようにします。帰りはツツジの脇道でないほうの道を使いましたが、落ち葉で滑りやすく、傍らのトラロープを掴みながら、難儀しました。このルートで一番の危険箇所でした。全員下りたのを確認したのち再び、グループ単位で歩くわけですが、よ

くわからなくなってしまいました。やがてコンクリート舗装道路の終点に着きました。ここで小休止とし、皆さんの体調の確認をするはずでしたが、元気に圧倒されて失念していました。

ここからは、北毛青少年自然の家

まで歩くだけです。丸太階段は使わずに林道をそのまま進みます。13時少し前、少し汗ばんできたところに到着しました。

全員無事に歩けたことに、安堵しました。参加者、関係者の皆さんに感謝いたします。

県民登山 C コース

(子持山登山)

[一般向き・急坂少ない]

高低差約 600m / 約 6 時間

青少年自然の家→子持山→青少年自然の家

(※一般車道歩きがあります)

C L 金子一実

清々しい秋空の元、寒さを感じ紅葉を楽しみながら北毛青少年自然の家、駐車場に集合となりました。今回の参加者は、経験豊富な岳連関係者が大半を占め一般参加者は少なく岳連の親睦会のような県民登山となりました。

コースは、3 コースに分かれ総勢で 100 名強の参加があり、C コースは 20 名で 3 班に分けて、北毛青少年自然の家駐車場を 8:00 にスタートし、県立ぐんま天文台駐車場を経

由し樹林帯の林道を 1 時間ほど登り、登山道に入っても樹林帯が続く周りの景色が見えないコースでしたが、稜線に出ると一気に展望が広がり、気分は爽快になり足も軽くなりました。しばらく登ると目指す山頂に到着しました。(11:00 到着)

山頂からの景色は 360 度、群馬の山々が良く見え写真撮影が十分出来ました。ここで 20 人が昼食を取ると混雑が想定されるため、30 分ほど下った NTT 電波塔広場でお昼にしました。参加者には受付時に、携帯して頂いたココヘリ端末と親機を使い、機能のデモンストレーションを行いココヘリ端末の必要性をアピールしました。今回、日本光電工業さんの協力で AED を持参出来たので、重ねてデモンストレーションを行い登山時緊急用具の一部として紹介しました。

ここからは、管理道路をひたす

ら下山し北毛青年の家駐車場に 14:00 に戻り、予定より少し早い時間でしたがトラブルもなく終了となりました。

北毛青少年自然の家駐車場から子持山山頂往復のコースは NTT 電波塔の管理用道路が大半を占めるので、なるべく登山道を登るルートを選ぶのにあたり、下見が必要と考えていたところ境町山の会 会長の大和さんが行ってくれました。

登山中に家族単位以外の方は、密状態が起これないように注意を呼びかけながらの登山を行いました。時々、密状態が出来てしまいました。コロナウイルス感染防止策として 2 メートル以上の間隔を維持しての登山活動は人数的に難しさを感じました。

参加の皆様、ご協力ありがとうございました。お疲れ様でした。



株式会社エーアールアイ
東京都練馬区上石神井 3-18-1
TEL 03-5991-4638

『コロナ禍で中止に』 2020 年度登山教室

指導委員会 対比地 昇

2020 年 6 月上旬、20 年度の「登山教室」は新型コロナウイルス感染拡大のため中止と決めた。例年 5 月に要項案を理事会にて検討、6 月にはチラシの配布、申込開始という日程で進めていた。

4 月に感染者が増え第 1 波を迎えたが、5 月に入り緊急事態宣言も解除され感染者も減少している中で判断する時期を迎えた。国内の夏の大きなイベントは次々と開催中止を発表し、「日本スポーツ協会のイベント開催指針」や「山岳 4 団体声明文」などが出され、開催するにしても細かい対策が求められるようになった。群馬岳連の行事でも自然観察会(5 月)やスカイビュートレイル(9 月)は早々と中止を決めていたが、ジュニア委員会のチャレンジキッズプロジェクト赤城山(7 月)や日本山岳会の健康登山

塾(9 月)などは開催する方向で準備しているとの情報もあった。

今まで登山教室で大事にしてきたこととして豊富な講師陣を利用しての個人指導の多さというものがある。座学、実技とも地図読み、コンパスワークなどで個人指導を多く取り入れてきたが、3 密を避けての指導はなかなか困難だと考えられた。一応、開催に向けて準備をし、様子を見ながら判断していくという意見もあったが、指導委員会の意見を集約し中止と決めた。

約 25 年間連続して行われてきた行事を途切れさせてしまうことになるが、山岳指導者など関係者のご協力を得て来年度はぜひ開催できるようにしたいと思っている。



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2

TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026

群馬の山

1

『カッコソウ咲く 5 月に訪ねたい』

鳴神山 (桐生市)

難易度 A / 体力度 2

駒形登山口→鳴神山→木品登山口

標準的なコースタイム 2 : 30

2 万 5 千分の 1 地形図「大間々」

鳴神山は、かつて嶽山、雷神山ともいわれた。東峰は桐生岳、梅田岳、西峰は仁田山岳である。多くの名があり、人々にあがめられた山であることをうかがわせる。山頂からは、関東平野の山々、足尾、奥日光の山々も一望できる。ク



カッコソウ



ヌギ、コナラなどの自然林やカッコソウ、ナルカミスミレ、レンゲショウマなどの植物分布でも知られ、県指定の「鳴神山自然環境保全地域」ともなり、豊かな自然を残している。（「群馬の山歩きベストガイド」から）

鳴神山山頂

「群馬の山歩きベストガイド

安心して登れる126 コース」

群馬の山歩き
ベストガイド

安心して登れる126コース



定価 1400 円 + 税

ISBN978-4-86352-249-7

群馬県山岳連盟と日本山岳会群馬支部、群馬県勤労者連盟による群馬県山岳団体連絡協議会の編集で、上毛新聞社から発売中。お求めは岳連総務委員会へ。県内外の書店でも好評販売中。



嶺呂命名のいわれとその継承について

「嶺呂」とは、万葉集に出てくる言葉で、嶺は、山々・峰々の意味で、呂は親愛・感動の念を込めて使う接尾語です。万葉集、上毛野国の歌の中に、「久呂保の嶺呂」（赤城山）とか、伊香保の嶺呂（榛名山）などという風に使用されており、群馬岳連の会報の名にふさわしいものと思います。命名者は浜名会長です（嶺呂創刊号 1974 年 10 月 1 日）。

「山岳ぐんま」では今後、「嶺呂」コーナーを設け、会員のエッセイなどを連載し、命名の精神を継承していく予定です。

後編 記集

広報委員長として伝統ある「山岳ぐんま」の担当となりました。力不足に加え、頭もだいぶ鈍くなってしまったので、編集の経験者とは言え、心もとない思いです。しかもデジタル版への移行という「大仕事」に直面し、山で言えば、霧の中で地図もコンパスもないような困惑状態です。みなさまのお力添えで何とか道を開いていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。（広報委員長・根井）

弱電工事承ります。

電話工事、ネットワーク工事及びセットアップ (LAN 及び Wi-Fi 環境)、

TV アンテナ及びケーブル工事

パソコンで悩んでいませんか？

ソフトの使い方はわかりませんが、ハードの悩みは相談してください。

（難しい故障の場合は外注となります。）

ミヤマネットワーク

代表 佐藤光由

群馬県前橋市高花台 1-6-5

電話 027-269-1143 携帯 090-8842-2158